

第99回例会

TRPGを通して考える、言葉 (language)、言葉すること (linguaging)、言葉する人 (languager)としてのわたしたち

■ 企画・話題提供 ■

石田喜美 (横浜国立大学)

■ プレイヤー ■

石田喜美 (横浜国立大学)、草谷緑 (フリー・ディレクター)、
山本冴里 (山口大学)、中山由佳 (山梨学院大学)、大平幸 (四国大学)

■ 日時 ■

- 第1回 2025年2月8日 (土) 18:30~21:00 オンライン (先着30名)
第2回 2025年3月8日 (土) 17:00~21:00 横浜国立大学 (若干名)
第3回 2025年3月29日 (土) 19:00~21:00 オンライン (先着50名)

※参加費無料 要事前申込

※非会員の方もご参加になれます

近年、「トランスランゲージング (translinguaging)」をはじめ、「言葉 (language)」を動かぬ、固定化した実体として見るのではなく、私たち人間が行う行為としての「言葉すること (linguaging)」を捉えんとする考え方が広くみられるようになりました。このような見方は、必然的に、人々によって生み出され、変化し、さらには滅亡していくことすらある言葉の存在に、目を向けることにつながります。本企画の目的は、このような言語観に基づきながら、人々の集まる共同体と言語をめぐる関係性について、フィクションの物語をともに生み出すことを通じて、考える機会を提供することにあります。言語の滅びをテーマにしたテーブルトーク・ロールプレイングゲーム (以下、TRPG) 「ダイアレクト (Dialect)」のプレイとそのプレイの様子の振り返りを通じて、参加者の皆さんとともに考え、議論する場を設けたいと思います。

本企画は、3回シリーズで行います。

■ 第1回(オンライン)「共同体をつくる・登場人物をつくる」■

2025年2月8日(土) 18:30~21:00 オンライン 先着 30名 申込は[こちら](#)



第1回目は、言語の滅びをテーマにした [TRPG「ダイレクト」](#)、および、今回用いる物語設定(バックドロップ)について説明をします。またこれらを踏まえたうえで、参加者の皆さんからアイデアをいただきながら、このゲームの舞台となる①孤立した共同体(アイソレーション)とはいかなる場所であり、そこでどのように人々が暮らしているのかを考えていくとともに、そこで暮らす②登場人物たちを創作します。人々が「言語」という行為・活動を行う舞台を、皆で想像/創造していくことで、私たちがふだん生きている言語の舞台とはどのような舞台であるのかを再考していくようなワークショップとなることを期待しています。

■ 第2回(対面:横浜国立大学)「言葉の生成と変化、滅びをプレイする」■

2025年3月8日(土) 17:00~21:00 横浜国立大学(YNU BASE HAZAWA)

定員 若干名(第1回参加者のうち希望者の中から抽選)

第2回は、第1回目に創作した設定を用いて、実際に、5名のプレイヤーがTRPG「ダイレクト」をプレイします。TRPG「ダイレクト」では、「時代1」「時代2」「時代3」という3つの時代をプレイしていきます。「時代1」では、登場人物たちによって、共同体およびそこに置かれた人々の状況に即した「単語」を生み出していきます。「時代2」では、「時代1」と同様に、新たな「単語」が生み出されることもあります。前の時代に生み出された「単語」の意味や用いられ方が変容したりするような事態も生じてきます。「時代3」ではさらに、共同体の終焉に向かって、言葉が変化したり失われていったりしていきます。このような、すべての時代を経たあと、最後に、それぞれのプレイヤーたちは、わたしたちの言葉とそれぞれの登場人物の、あるいは共同体のその後について物語ります。

■ 第3回(オンライン)「わたしたちとわたしたちの言葉をめぐる物語をふりかえる」■

2025年3月29日(土) 19:00~21:00 オンライン 先着50名

3/9申込開始 [こちら](#)から



第3回では、第2回のプレイ会の様子を簡単に紹介したのち、今回の企画にプレイヤーとして参加した5名それぞれが、プレイの中でどのような経験をしたのかを振り返り、報告します。また、第2回のプレイ会において生まれた物語や、そこからそれぞれの登場人物/プレイヤーが経験したこと・感じたことをもとに、言葉を行為・活動としてとらえること、「言葉する人(languager)」としての私たちを捉えることの意義や、私たちと言葉との関係を再考し変革していくツールとしてのゲームプレイやパフォーマンスの可能性について議論していきます。

言語文化教育研究学会 企画委員会

Email : project@alce.jp